

子どもに寄り添い笑顔あふれる一時保護所をめざして ～社会に必要とされている自分に出会うこどものすまい～

(1) 子どもが安全・安心に過ごせる児童相談所のあり方

- ①地域社会・職員と一体となった一時保護所
・地域社会・職員はある意味においては「子どもたちの親」であり家族のような深い愛をもって子どもたちと接しあえる、ひとつの大きなすまいととらえ**家庭的雰囲気、温かみのある一時保護所**を目指します。
- ②事務棟と一時保護所棟の明快なゾーン分離と建築デザインの提案
・地域の人々の相互交流や気軽な利用を図るため、明快な管理部門配置とし、容易な管理を目指します。
・事務棟は、威圧感のない落ち着いた空間構成、**「静」的空間**とします。階高を必要最小限に抑え、深い軒をつくり、ひとつの大きな切妻屋根をもった伸びやかなデザインとします。
・保護所棟は、明るく風通しの良い軽やかな片流れ屋根、**「動」的空間**とします。子どもたちへ躍動感、希望を予感させ、棟単位でデザインを変えます。
・**家庭寄りの間取り**に近づけます。学習室においては、学校教室を模した内装にして学校に行けない不安を和らげるなど学習意欲を高め、自宅での生活環境にできる限り、似通った雰囲気を取り入れます。

●構造計画

- ・主体構造を鉄骨造でつくり、要所に耐震性能のある構造壁で構成します。室内に現れる部分は木材を多用し、暖かみのあるハイブリッド構造にします。地震時の天井落下など非構造部材への耐震補強、天井吊込の設備等への安全性の配慮を行います。

●設備計画

- ・平屋建て横長平面形状から、分散配置型空調設備を採用し、効率よく省スペース省力化を図ります。
- ・一般流通部材を極力使用し、維持管理コスト削減、メンテナンス性の良さ、低コスト化を図ります。
- ・災害時の機能維持、自立運営が可能な設備計画。
- ・重力自然換気を用い、施設特有の臭いを排出します。

●建設コスト管理について

- ・安全・品質に配慮したコスト管理を実施。
- ・利用者の安全、建物の品質を守り、基本、実施設計完了時、段階ごとにコスト検討を行い、適切なコスト配分を確認します。
- ・様々な可能性を検討し、LSC(ライフサイクルコスト)の縮減に努めます。

(2) 子どものシェルターとなる児童相談所のあり方

- ①シェルター機能確保と開放性の共存
・シェルターの確立と開放性、これら相反する要素を建築的に解決します。
・**最適で明確なゾーン分けと容易な管理システム、厳格なセキュリティシステム**を図ります。
- ・保護所棟においては、行き止まり空間をなくし、回遊性のあるのびのびとした間取り、プライバシーを考慮した解放的な間取りを外構計画と一体的に提案します。
- ②子ども目線からの豊かな生活環境の体現
・児童居室には掘りゴタツ式の勉強机を配し、畳床の他一部板の間とします。気配の感じられるプラスチック障子間仕切り壁や透けるカーテンにて軽やかに仕切り、思春期の時期や使い方によって開閉できる、**セミプライベート空間を提案**します。早期には窓越から望む、光の芝生が、朝露に濡れ、きらめき、すがすがしい陽光を浴び一日が始まります。
- ・お話しベンチや、鑑賞ベンチなど、“たまり”を設け、光庭2、光の芝生大小2つの園庭と相まって一人で過ごしたり、

対話をかさね、遊び、学び、休息、くつろげるホッとする空間を提案します。

(3) 誰にも使いやすく、快適で機能的な児童相談所のあり方

- ①こころのバリアフリーまでも目指して
・**バリアフリーを基本**として、光の明暗・見えない間仕切り(素材の切り替え)、空間の大小高低・視線の変化・連続する空間と動線の関係等、さまざまな視点から窮屈な生活の解放を図ります。
- ・日常から切り離された子どもたちが、入所したことにより抱える、強いストレスを最小限におさえ、活力を生む一時保護所をめざします。(こころのバリアの解消)
- ②地域住民から愛される一時保護所
・保護者・地域住民・行政職員や各種専門家などが気軽に訪れやすい気軽な空間を実現します。ちょっとした時間くつろげる**地域協働ラウンジ**を提案します。会議がはじまる前後のさまざまな専門性をもった人々との協働・交流をスムーズに図れるよう助長します。

(4) 周辺環境と調和し、地域と共存する児童相談所のあり方

- ①建築の可能性と周辺にあたる影響を考慮
・**森にたたずむ建築**をイメージします。従来の重厚かつ威圧感のある施設ではなく、軽快な中にも日本の伝統美を基調とし、さりげなく意識が高揚するような空間を提案します。
- ・四季のうつろいが感じられる植栽計画、北側に密生する植生に連続して敷地に入り込む木立。そこに、**森の相談室**を配します。

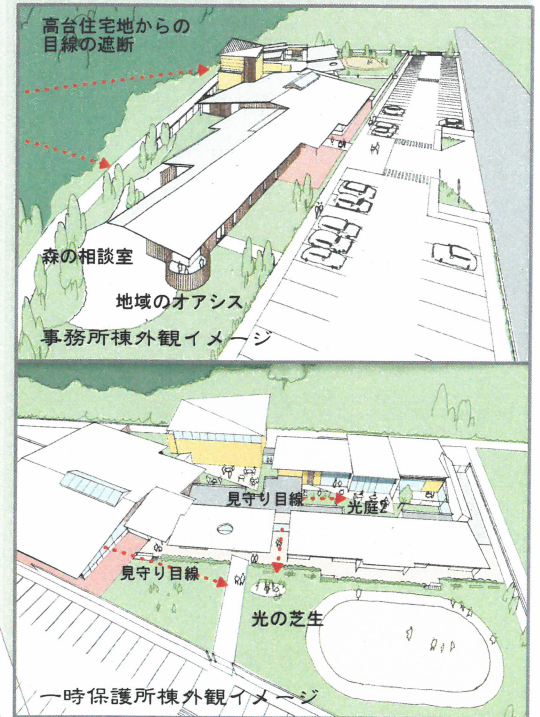
遊具や子どもの動きがわかる事務空間
冬の季節風を和らげる防風林の働き
冬期でも室内散歩ができるループ状動線

※印の欄は、記入しないでください

受付番号

※ 6

子ども居室の間取り提案
・子ども居室はできる限りプライバシーを考慮した間取りを提案します。居室近くには家庭的な内装のトイレや洗面室を設け第2の居宅的イメージを持たせます。



●居室セミプライベート空間の提案

僅かに透けたカーテン間仕切り
木丸柱で柔らかに
セミプライベート空間
プラスチック障子間仕切り
縁側学習コーナー
掘りゴタツ勉強机

男子・女子居室
間取りイメージ

- ・エントランスまわりは、ウッドデッキのあるカジュアルな雰囲気にして、木製縦格子の温かみのある壁、その先には、室内床面と同レベルの**水の庭**を配し、眼前の森林と陽光のゆらぐフレクシオンを天井に映し、温かみのある間接照明と一体となり室内へと穏やかに誘われます。
- ②街並みに潤いを与える
・敷地北側に隣接する緑の木立を借景として、建築形態とあわせて**地域のオアシス**となるように、緑化計画を施します。
- ・入所者、来所者、住民、各職員から訪れる楽しさを楽しみ、愛される施設を目指します。

(5) その他、本施設の計画において特に重要と考える提案

- ①子どもに寄り添い笑顔あふれる一時保護所を目指して
・現在のおかれている一時保護所の現状を人的・物的両側面から、さらに調査・考察し未来へ向けてのふさわしい一時保護所のあり方を探り建築に取り入れていきます。
すべては子どもたちの笑顔のために・・・
- ②職員のおかれている環境改善にも配慮します。
・スタッフリフレッシュテラスなどで気分転換ストレッチ
- ③18歳を超えた児童を見守る施設との連携
・敷地に隣接して、**18歳を超えた児童のフォロー施設**の提案をします。当該敷地東部の県農業試験場跡地を利用して、子どもや保護者等を支援する場所環境の整備を図り、地域社会と連続した県内重要拠点として整備を提案します。
- ・あらゆる子どもへの対応が、よりの確に迅速に行え、社会へのスムーズな移行をはじめ、行く末まで見届けることが容易になります。地域企業との連携もとりやすく、利用する側、行政側双方にとって心強い拠点整備となります。

